

# きずな

## 小牧市民病院の理念

- 1 安全で質の高い急性期医療を行います
- 2 恕の心で患者さんに寄り添う病院を目指します
- 3 医療を通じて、安心して暮らせる地域の実現に貢献します



年ごと一緒に、育っていききたい。  
**Komaki**

### 特集 排尿ケアセンターと排尿ケアチーム

**【健康教室】** 頭痛について

**【各課だより】** 臨床検査科 微生物検査室

**【職場紹介】** 放射線科

**【意見箱から】** 健診時のスリッパのサイズについて

**【ニュース】** コムルの病院探検隊をお迎えしました

#### お知らせ

- 病院案内図
- 外来案内

過去の「きずな」はコチラ



# 排尿ケアセンターと排尿ケアチーム ～外来でも病棟でも包括的な排尿ケアを～

尿が近い、漏れるといった排尿のトラブルは普段なかなか口にしがらい症状ですが、実は悩んでおられる方は少なくありません。外来の「排尿ケアセンター」と、入院中の患者さんに対する「排尿ケアチーム」の取り組みについてご紹介します。

## 排尿ケアセンター

2008年から泌尿器科外来の1部門として「排尿ケアセンター」を立ち上げました。近年では尿が近い(頻尿)、漏れる(尿失禁)といった症状に対しては、かかりつけ医の先生方が排尿機能関連のガイドラインに基づいて、効果的なお薬を処方することが可能となっています。これらの治療で改善しない、薬だけでは治りにくい症状であった場合に、専門的な検査や治療もしくはケアを行うことが、この排尿ケアセンターの役割です。

代表的な検査や治療についてご紹介します。

### ①排尿機能を調べる検査

**尿流量測定検査：**尿の勢いを調べます。専用の洋式水洗トイレで用を足すだけです。検査の痛みはありません。

**尿流動態学検査：**膀胱・尿道の機能を調べます。



尿量測定室と検査結果



尿流動態学検査機器

細いカテーテルを尿道などに入れるので、若干刺激を伴いますが、排尿機能に関する手術を予定する方など、詳細に機能を把握する必要がある場合は有用な検査です。

### ②尿失禁に対する理学療法

咳やくしゃみで漏れる「腹圧性尿失禁」や尿が間に合わずに漏れる「切迫性尿失禁」に対して「骨盤底筋トレーニング」という運動療法を指導します。必要に応じて、個別に内診を行いながら指導をします。



運動や食事の記録をもとにして個別指導

③間質性膀胱炎／膀胱痛症候群に対する生活指導

いわゆる慢性膀胱炎と診断されている方の中に、「間質性膀胱炎／膀胱痛症候群」という、やや治りにくい病気になる方があり、薬で改善しない場合は個別の生活指導が有効となることもあります。食事内容、生活環境などを記録していただいて個別に指導を行います。

これらの検査、指導などのほか、必要な患者さんに対しては排尿障害の手術を行うこともあります。

排尿ケアチーム

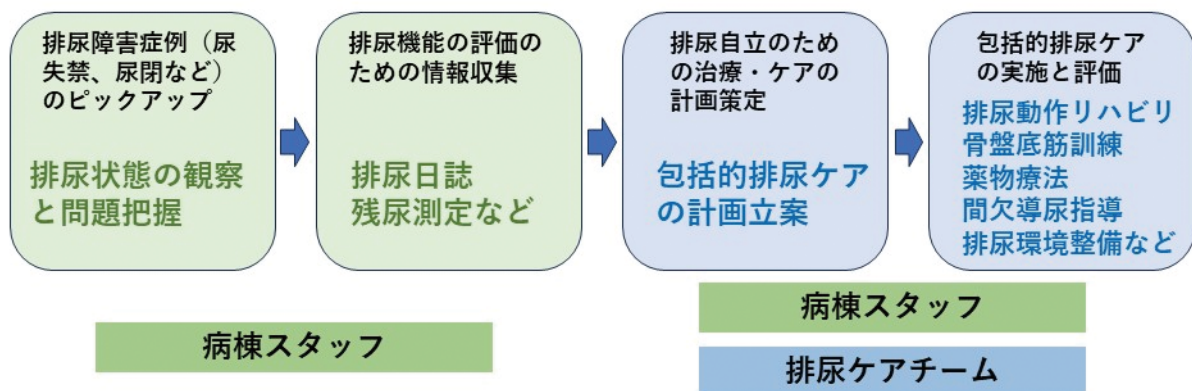
入院中の患者さんの排尿障害については2017年から「排尿ケアチーム」がかかわっています。泌尿器科の病気ではなく、例えば脳梗塞で倒れた、心不全や肺炎で苦しくなったなどの原因で入院された患

者さんでも、調べてみると突然尿の出が悪くなる、まったく尿が出ないなどの症状が同時に発生していることがよくみられます。また、頻尿や尿失禁の症状が判明することもあります。

これらの患者さんの排尿機能を改善するために医師、看護師、理学療法士からなる「排尿ケアチーム」と病棟のスタッフとが共同して「包括的排尿ケア」を行っています。もちろん薬なども処方しますが、主として排尿の動作がスムーズに行えるようにするためのリハビリテーションを重要視しています。また、膀胱機能の回復を助けるためのカテーテル管理や排尿支援のための用具使用などを適切に行い、患者さんの排尿の自立を支援しています。

このように、当院では外来でも病棟でも排尿のトラブルに対応できるスタッフが多くいますので、気軽にご相談いただければと思います。

排尿ケアチームの活動の流れ（入院症例）



病院ホームページ 排尿ケアセンター

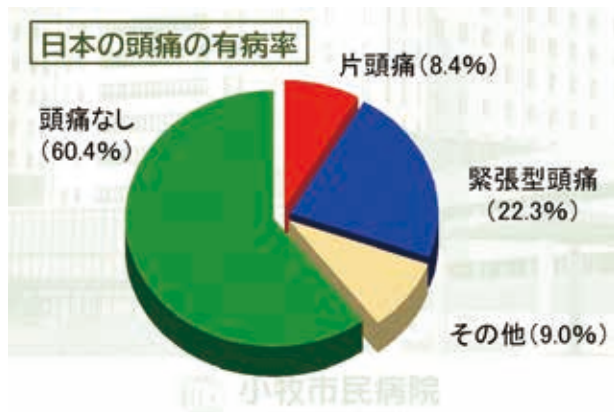


## はじめに

日本人の4割は頭痛持ちと言われ、原因によって一次性と二次性の頭痛に分類されます。

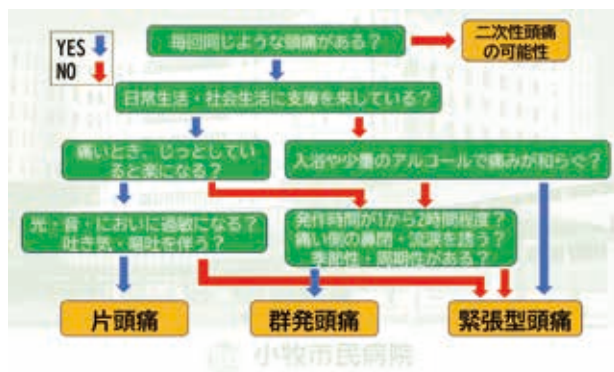
ほとんどは一次性頭痛で、脳に何も異常がなく、同じような頭痛を繰り返すことが特徴です。片頭痛、筋緊張性頭痛、群発頭痛などが代表的で、風邪のときやアイスクリームを食べたあと、二日酔いのときを感じる頭痛もこちらに分類されます。

二次性頭痛は頭のけがや髄膜炎、くも膜下出血、脳腫瘍、脳動脈解離など検査で異常がわかる病気が原因となり、早期診断・治療が必要となります。



## 頭痛分類のフローチャート

慢性的な頭痛がある方は、ご自身がどのタイプに当てはまるか確認してみてください。2つ以上の頭痛が合併することもありますので、全てがこのチャートに当てはまるわけではありませんが、それぞれの頭痛の対処法を紹介します。



## 片頭痛の対処法

暗い、静かなところで横になるか、睡眠をとりましょう。痛いところを冷やしたり押さえたりすると楽になるときがありますが、温めることは逆効果になります。痛み始めはカフェインが効くこともあります。

このような対処法でも改善しないときは鎮痛薬を服用します。市販のもので痛みが治まれば良いのですが、効果が十分ではない時は病院で処方する片頭痛の薬を服用します。近年、片頭痛のメカニズムが解明されてきて、特効薬も出てきていますので片頭痛でお悩みの方は一度病院にご相談ください。

## 緊張型頭痛の対処法

姿勢を正して、長時間同じ姿勢で作業をしないようにしましょう。マッサージやストレッチをしたり、首・肩の筋肉を温めたりすると良いです。枕の高さ、硬さが自分にあっていないときは変えてみましょう。

身体的・精神的ストレスが原因になっているときも多いため、心当たりがあれば可能な限り原因を取り除くようにしてください。

## 群発頭痛の対処法

市販薬での対処は難しいために、病院にご相談ください。

## おわりに

一次性頭痛と思っていても、実は二次性頭痛だったということもあります。今まで一度も脳の検査をしたことがない方は、当院の脳ドック受診や、近くの病院でご相談ください。また、一次性頭痛と過去に診断されている方も近年は有効な薬が多く出ていますので、お困りの方はかかりつけ医と相談して当院を受診してみてください。



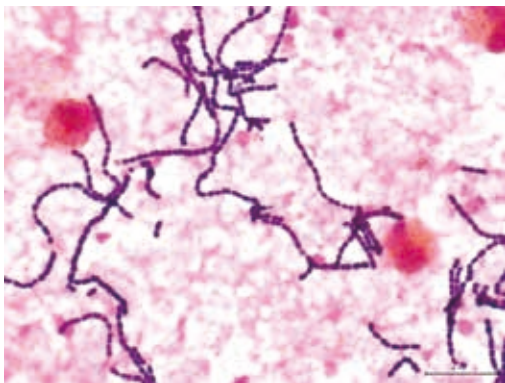
## 感染症の原因はなに?どんな治療が有効なの?

世の中にはたくさんの細菌やウイルスが存在しています。

みなさんもウイルスや細菌に感染した経験があるのではないのでしょうか?

微生物検査室では、患者さんの感染症の原因になっている微生物の正体は何か、それを特定するために、患者さんから検体(喀痰や尿、便、血液など)を採取し、様々な検査を行っています。

1. 検体を特殊な液体で染色し、顕微鏡でどんな病原菌がいるかを観察します。



2. 検体を寒天に塗り付けます。適切な環境で培養し、検体中の病原菌を目に見える形に育てます。



3. 病原菌が育ったら、どんな薬が効くのか証明するための検査を行います。



4. 顕微鏡で見えない、寒天で育たない病原体もいるので、抗原検査キットや遺伝子検査(新型コロナウイルスで一躍有名になったPCR検査です)を用いて検査をすることもあります。



感染症は、場合によっては命を脅かすこともあるため迅速な対応が求められます。

また何よりも病原菌は生き物なので、私たち臨床検査技師も絶えず検査を続けていかなければなりません。

## 院内感染は起きていないか!?

微生物検査室は、病院で検出される病原体情報が集まる場所であり、私たちは言わば病原体の‘第一発見者’になります。院内感染が起きていないか、薬が効かない菌が広がっていないかを常に注視して、危険な時には警告を発信することも微生物検査室の役割です。

今後も患者さんの感染症治療のお役に立てるよう、微生物検査室スタッフ一同、務めてまいります。



病院ホームページ 臨床検査科



### 放射線科について

放射線科は診療技術局に属し、診療放射線技師48名が在籍しています。さまざまな放射線検査、放射線治療を行うために医師や看護師、その他の医療従事者と協働して日々の業務にあたっています。

### 放射線科の役割

放射線を使った検査や治療を行います。

放射線検査は診断・治療に必要な画像を的確に撮影して提供することが目的です。

放射線治療では治療部位に放射線を照射し、適切に放射線が治療部位に照射されているかの検証や装置の精度管理などを行っています。

検査中の患者さんの痛みや精神的苦痛を和らげることや検査における被ばく線量の低減も我々の大きな役割の一つです。

当院で行っている検査・治療は以下のものがあります。

#### ・放射線を使用した検査

X線撮影、X線透視検査、X線CT、血管撮影、ラジオアイソトープ検査(RI検査)、陽電子放出断層撮影(PET-CT)

#### ・放射線を使用しない検査

MRI、超音波検査(放射線科では腹部・体表)

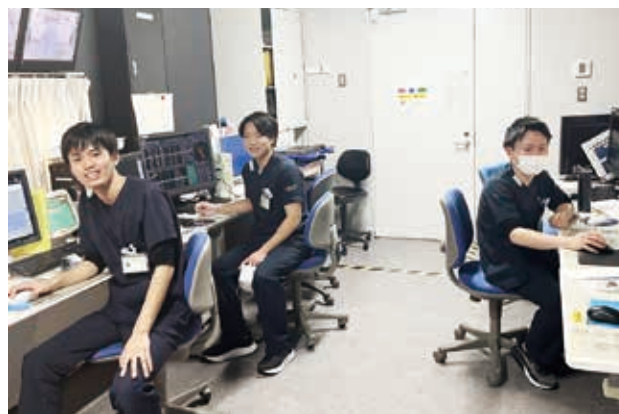
#### ・放射線治療装置

全身用リニアック、ガンマナイフ(頭部専用)

### 最近の動向

#### ・X線装置の稼働率増

カテーテルと呼ばれる細い管を用いた血管内治療



が増加しており、より低侵襲な治療法が選ばれるようになりました。この血管内治療にはX線装置が必要不可欠です。

#### ・放射線治療の施設認定取得

昨年度より強度変調放射線治療(IMRT)の施設認定を取得しました。これにより、腫瘍に対してより放射線を集中的に当てながら、副作用を減らすことが可能になりました。そのほかの高精度放射線治療にも積極的に取り組んでいます。

#### ・認知症とPET-CT検査

昨年新しい認知症治療薬が認可されました。この治療を行うためにはPET-CT検査での診断が必要となります。当院では現在この検査を行うための施設認定を申請中であり準備を進めています。

### おわりに

さまざまな放射線装置を複数台所有している強みを生かして、救急医療や最新の治療法に応えられるよう情報を得て日々検査法を見直し、患者さんが安心して質の高い検査や治療を受けられるよう努めていきます。



当院では、意見箱を設置し、来院者の方からのご意見、ご要望に対してできる限りお応えできるよう努めています。ここでは、お寄せいただいたご意見、ご要望の一部を紹介させていただきます。

### 《いただいたご意見》

年一回、会社の健診で利用していますが、できたらスリッパワンサイズ大きな物もどこかに用意しておいていただけると嬉しいです。



### 《ご意見に対するお答え》

健診センター

この度は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

健診時のスリッパにつきましては、以前にも同様のご意見をいただいております。そのため、現行より大きいサイズのスリッパをご用意いたしましたので、ご利用を希望される場合はお近くの職員へお声かけください。なお、ご自身の靴で受診していただくこともできます。

これからも受診者の皆様が快適に人間ドック、健康診断が受診できるよう努めてまいります。

## コムルの「病院探検隊」をお迎えしました

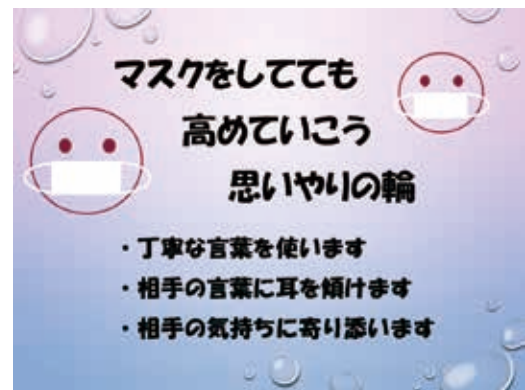
接遇向上プロジェクトチーム

病院探検隊とは、「患者さんの視点での意見を聞いて病院改善に役立てたい！」という医療機関の依頼を受け、患者さん目線で病院内を体験し、その結果をフィードバックするというもので、NPO法人ささえあい医療人権センター COML（コムル）が行っている活動です。

2023年11月21日（火）に、コムルの山口育子理事長を始めとする病院探検隊（総勢10名）の皆さんが訪問され、外来や病棟の案内や自由見学、また病院食を試食していただきました。

当院では、「患者さんに寄りそうには、職員にも寄りそうことが必要である」という考えから、2018年12月に「接遇向上プロジェクトチーム」を立ちあげ、接遇向上に向けた取り組みや挨拶運動を行ってきました。コロナ禍においては、マスク着用が日常となりましたが、標語を作成しポスター掲示するなど職員の意識啓発に努め、挨拶を心がけました。

今回、病院探検隊をお迎えし、接遇向上に向けた当院の取り組みを評価していただく有意義な機会を得ました。フィードバックでは、細やかな指摘や具体的な改善の提案とともに、「病院理念が浸透している」「親しみやすい対応であった」など、あたたかいお言葉をいただきました。今後も、病院の理念である「恕の心で患者さんに寄り添う病院」を目指し、職員一丸となって努力してまいります。



標語ポスター

病院ホームページ 当日の様子



# 市民病院案内図

病院ホームページ  
交通アクセス



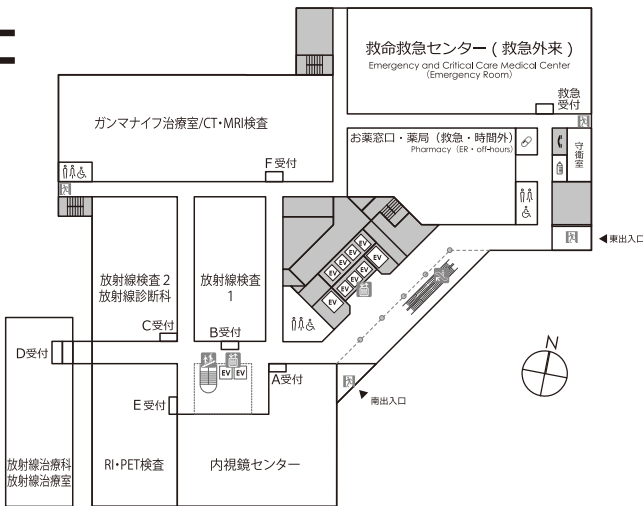
## ■有料駐車場料金

- 1時間まで無料
- 1時間を超え8時間まで100円
- 8時間を超え24時間まで1,000円
- 以降24時間を超えるごとに1,000円加算

■ 外来患者用駐車場

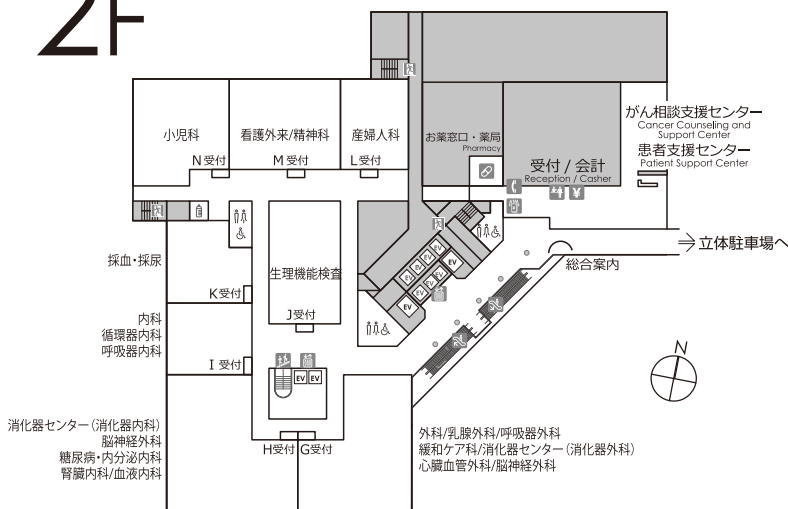
## 外来案内

1F



- 〈診療受付時間〉  
午前8時30分～午前11時30分
- 〈診療時間〉  
午前9時～午後5時
- 〈休診日〉  
土曜・日曜・祝日・年末年始
- ※急患の方は、救命救急センターで随時診療

2F



3F

